

分娩第3期の積極的管理による分娩時出血量減少の検討についての

対象症例登録に関するお知らせ

研究名称

分娩第3期の積極的管理による分娩時出血量の減少についての後ろ向き観察研究

研究の目的

本邦の妊産婦死亡報告例は約30%が産科危機的出血によるものであり、産後の過多出血予防のために分娩第3期の積極的管理を行うことがガイドラインで推奨されています。また、世界保健機関(WHO)ではすべての妊婦さんに対して、分娩第3期に予防的子宫収縮薬(オキシトシン)投与を行うことを強く推奨しています。当院では、WHOの推奨にならない、2011年3月より分娩第3期の積極的管理として、児娩出後のオキシトシンの筋肉内注射、子宮底マッサージ、積極的胎盤娩出を行っています。

今回の研究によって分娩第3期の積極的管理が分娩時出血量の減少に寄与していることが明らかになれば分娩時出血量の減少、ひいては妊産婦死亡の減少に繋がると考え、本研究を計画しました。なお本研究は当センター倫理委員会の承認を得て行っております。

研究の方法

2008年1月1日から2013年12月31日までに当院で分娩された単胎経膈分娩の患者さんが対象となります。既にあるデータベースを元に患者さんの年齢、経産回数、分娩週数、分娩第3期の時間、分娩時BMI、出血量を抽出し、積極的管理を行っていなかった2008年1月1日から2011年2月28日までの待機的な管理群と2011年3月1日から2013年12月31日までの積極的管理群に分けて解析します。本調査は純粋な調査研究であり、患者さんへの直接的な介入や侵襲はなく、いかなる利益・不利益も生じません。また、情報はすべて匿名化され、個人が同定されることは決してありません。

もしもご自身、あるいはご家族の情報を本調査に登録されたくない場合には、下記連絡先までご連絡下さい。撤回を希望される患者さんの情報は削除し、研究データとして使用することはありません。また、撤回により何ら不利益を被ることはありません。なお、当ホームページ掲載後1年以内にお申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

(倫理委員会承認日:平成 28年2月25日)

連絡先 群馬県立小児医療センター 産科 部長 高木 剛 電話:0279-52-3551(代表)